

カキ (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

耐干性は比較的弱いので、乾燥の激しい土壌では生育が悪い。このため、養水分の保持力があり、保水力のある土壌が適する。根群分布は全般的に深く、直根が深く入り細根が少ない。施肥にあまり敏感な果樹ではないので、樹の生育、収量、土壌状態などを毎年観察し、年々根域の改良が必要である。

土壌表面管理としては、清耕法、草生法、有機物によるマルチ法などがある。土壌中の有機物を増加させ、土壌団粒化の促進を最大限に生かす工夫をする。

〔病虫害・雑草防除〕

円星落葉病は、降雨を考慮した生育初期での防除が必要である。また、適正樹勢を保つ樹体管理も大切である。炭疽病は、葉が繁茂している通風の悪い園で発生が多いので、適正なせん定、肥培管理に心がける。多くの害虫は、粗皮下で越冬するので、骨格枝にこもを巻き春先焼却することや、粗皮削り、落葉・せん定枝の圃場外への除去など耕種的防除が大切である。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	深耕時に堆肥を計画的に施用する。その際断根を極力少なくする。 有機物(または堆肥)によるマルチ。堆肥は完熟した低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)を施用する。	有機物 (または堆肥) 2~3t/10a
化学肥料 低減技術	根域への表層施用を基本とする。 有機質肥料による施肥を行う。	分量で施肥基準 以下 有機質肥料併用の 場合には化学肥料 低減率20~50%
化学農薬 低減技術	機械除草を行う。 BT剤をローテーション散布に位置づける。 (対象:カキノヘタムシガ、ケムシ類、ハマキムシ類) 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 (対象:ヒメコスカシバ)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	基肥は落葉後早く施用する。追肥の時期は、早過ぎると新梢の充実が悪く耐寒性がなくなり、遅すぎると果実品質に影響するので注意する。 若木のうちは樹冠下清耕またはマルチ法とし、カキ樹との養水分の競合をさける。 円星落葉病は、落葉の圃場外への除去が有効である。防除適期を把握し、遅れないようにする。 炭疽病は、せん定を行い、風通しを良くする。 こも巻き・粗皮削りおよび適期防除 (対象:カキミガ、カイガラムシ類、アザミウマ類)。 施肥量の基準は樹齢、樹体に応じたものとする。	

カ キ (灰色低地土)

〔土壤肥料〕

耐干性は比較的弱いので、灰色低地土の中でも乾燥の激しい土壌では生育が悪い。このため、養水分の保持力があり、保水力のある土壌条件にする工夫が必要である。根群分布は全般的に深く、直根が深く入り細根が少ない。施肥にあまり敏感な果樹ではないので、過剰な施肥にならないよう樹の生育、収量、土壌状態などを毎年観察し、年々改良が必要である。

土壌表面管理としては、清耕法、草生法、有機物によるマルチ法などがある。土壌中の有機物を増加させ、土壌団粒化の促進を最大限に生かす工夫をする。

〔病害虫・雑草防除〕

円星落葉病は、降雨を考慮した生育初期での防除が必要である。また、適正樹勢を保つ樹体管理も大切である。炭疽病は、葉が繁茂している通風の悪い園で発生が多いので、適正なせん定、肥培管理に心がける。多くの害虫は、粗皮下で越冬するので、骨格枝にこもを巻き春先焼却することや、粗皮削り、落葉・せん定枝の圃場外への除去など耕種的防除が大切である。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	深耕時に堆肥を計画的に施用する。その際断根を極力少なくする。 有機物(または堆肥)によるマルチ。堆肥は完熟した低成分含量堆肥を施用する。	有機物 (または堆肥) 3t/10a
化学肥料 低減技術	根域への表層施用を基本とする。 有機質肥料による施肥を行う。	分量で施肥基準 以下 有機質肥料併用の 場合には化学肥料 低減率20~30%
化学農薬 低減技術	機械除草を行う。 BT剤をローテーション散布に位置づける。 (対象:カキノヘタムシガ、ケムシ類、ハマキムシ類) 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 (対象:ヒメコスカシバ)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	基肥は落葉後早く施用する。追肥の時期は、早過ぎると新梢の充実が悪く耐寒性がなくなり、遅すぎると果実品質に影響するので注意する。 若木のうちは樹冠下清耕またはマルチ法とし、カキ樹との養水分の競合をさける。 円星落葉病は、落葉の圃場外への除去が有効である。防除適期を把握し、遅れないようにする。 炭疽病は、せん定を行い、風通しを良くする。 こも巻き・粗皮削りおよび適期防除 (対象:カキミガ、カイガラムシ類、アザミウマ類)。 施肥量の基準は樹齢、樹体に応じたものとする。	